

1
世外侯事歴

維新財政談

沢田 章 編

世外侯
事歷

維新財政談

《明治百年史叢書》

第265回配本／第270巻

世界歴史 維新財政談

定価 6,000円

昭和五十三年二月二十日 印刷
昭和五十三年二月二十五日 発行
覆刻原本 大正十年刊

編者	澤田	章
解題	大久保	謙
発行者	成瀬	恭
印刷所	(株) 平河工業	社
製本所	佐拔製本	所
発行所	株式会社 原書房	

東京都新宿区新宿一―二五―一三
振替口座 東京五一―一五一―五九四番
電話〇三(354)〇六八五番(代表)

落丁、乱丁本はおとりかえいたします。

3333-13700-6945

凡 例

一 本書題して「世外侯維新財政談」と云ふ。蓋し故井上侯の明治初年に於ける財政事歴編纂の參考に供せんがため、當時の財政事情に通ぜる故老諸賢の實歴談を聴取し、之を類別輯録したるものにして、固より故侯事歴編纂事業の緒餘に過ぎざるなり。

一 明治四十一年故侯の大患回復後、明治初年に於ける故侯財政事歴編纂の舉あり。その史料蒐集の一手段として、或は談話會を催し、或は個人訪問を試み、故老諸賢に實歴談を乞ひ、前後數年に涉り談話を速記せるもの、積んで數十冊の多きに至れり。然るに當初談話を聴

取するに當りて、豫じめ題目を定めたるにあらざりしが故に、内容錯綜、多岐にして統一なく、閱讀考據に便ならざるものあり。依て其繁雜なるものを去り、重複なるものを除き、新に題目を立て、類聚編成以て本書を成す。若し夫れ、書中往々にして談話事項の題目に合致せず、或は聯絡を缺くものあるが如きは、編次上誠に止むを得ざるに出づ。讀者幸に之を諒せよ。

一 各章題目の下に談話者の氏名を記し、其順序は談話の序次に由りて列記す。爵位は談話當時のものに従ふ、例へば澁澤子爵を男爵と記するの類是なり。又談話聴取の日時は、一々其談話事項の末尾に之を註記す。

一 題簽の文字は澁澤子爵の揮毫に係る、茲に記して感謝

の意を表す。

一 實歴談を乞ひたる諸賢中、故侯薨去してより既に七歳、芳川伯、松尾男、山本復一、佐伯惟馨等の諸氏亦相繼ぎて逝き、今や再び其音容に接すべからず。茲に本書を印刷に付するに臨み、之を念ふて感慨更に切なるものあり。

大正十年八月下澣

編 者 識

本書は男爵三井八郎右衛門氏の厚意に由りて成る。書中收むる所、亡父を追懷するに足るべき好史料たるのみならず、世に裨益する所、亦或は尠少ならざるものあらん。茲に七周忌法要を擧ぐるに際し、記念として、之を各位の座右に呈す。

大正十年九月一日亡父七周忌辰

井上勝之助

上卷目次

一 維新當初の財政狀態

(二一一)

内帑の窮狀——駕輿丁——熊谷直恭——熊谷直孝——朝廷へ賣溜
金の持參——林宇兵衛——小原鐵心——宇田栗園——池村久兵衛
——伊東範次郎——六十六兩獻金——千兩獻金——御所に金がな
い——人材登庸——蒲團の徴發——軍用米を集む——蒲團の借集
——岩倉具視——岩倉具綱——蒲團の貸賃——熊谷直孝の日誌——
矢野玄道——新撰組——岩倉具定軍資の缺乏に苦む——三岡八郎
——三井、小野、島田等の獻金——安藤就高——箱館の戦争——由利
と大村の間答——軍資金十萬兩——軍資金十萬兩の調達——三井
小野等の論功——兜町海運橋

二 太政官札の發行並製造の顛末

(一一—三二)

太政官札發行の是非論——太政官札發行につきての由利公正の眞意——太政官札發行は一時の權宜——太政官札の通用十三箇年限——横井小楠の紙幣觀——横井小楠と由利公正との關係——由利の小楠評——大阪富豪に百萬兩の調達——太政官札の下落——由利の激論——由利の退職——南部廣矛の太政官出仕——越後征討の軍用金徵發——前田侯に正金拾萬兩を徵す——太政官札流通取調の巡察使——武井守正——太政官札製造の用紙——用紙の漉方——用紙の濕場——銅版印刷——平井榮三郎——太政官札の渡場——商法會所——山中傳兵衛——太政官札の貸下——太政官札と正金との比價——太政官札と軍用金——正貨の暴騰——太政官札の時價通用禁止——太政官札の時價通用をなすものを縛す——太政官札と正貨の引換——河瀬秀治——山中靜逸——宇田淵——西

川甫——太政官札の發行は應急策——太政官札貸下の強制

三 民部省札の發行並製造の顛末

(三一—三四)

民部省札發行理由——民部省札の製造——吹田四郎兵衛——銅版印刷——木製ロール——民部省札製造場の監督——改役——工場の裝置

四 贋札改の模様

(三四—四一)

山陽道四國地方の贋札取調模様——廣島の贋札——福岡藩の贋造者處分——黒田山城の切腹——細川潤次郎——玉乃世履——林友幸——島惟精——丸岡莞爾——贋札取調出張中の奇話——贋札の取調方——倉敷の贋札——贋札の鑑定人

五 銀目廢止と銀相場

(四二—五〇)

銀目廢止と大阪の大恐慌——三分差——銀目位相場——銀目廢止の理由——大阪及東京の銀相場——東京の定相場——横濱の洋銀相場——幣制の紊亂に伴ふ貿易上の損失——一分銀と洋銀の比價——二分金分析

六 贋貨二分金の處分

(五〇—六〇)

贋貨二分金に對する外國公使の抗議——英公使パークスの激語——二分金緘封——藝州、薩州、及筑前等の贋金——瓔珞——加賀の贋金——會津の贋金——一分銀と櫻印——ドル製一分銀——贋金の引換——神戸に於ける二分金封印——緘封貨の弊害——十人兩替——大阪に於ける二分金封印——贋貨の引換——函館の贋貨引換方

七 造幣寮創立當時の事情

(六一—七三)

造幣寮創立理由——造幣器械購入事情——井上侯長崎に造幣所を

八 造幣寮建築の模様

(七三—九二)

建設せんとす——耶蘇教徒處分問題と造幣所建設の爲め井上侯の上京——貨幣統一の必要と太政官の決議——五代才助——造幣寮と井上侯——造幣首長キンドル雇入——井上、澁澤の初對面——長谷川の造幣寮出仕——造幣開寮式——馬渡俊邁造幣頭に任——金座役人と三岡八郎——貨幣司と長岡右京——常盤屋主人片山權平

造幣寮の建築と火災——大藏省出張所——泉布觀と造幣局長——造幣寮の敷地と舊幕府の米廩——造幣寮の火災と事務所——ウオートルス——民部省出張所——ウオートルスとキンドル——煉瓦積と左官——ペンキ塗と塗師屋——磨方植田吉三郎——造幣局——造幣寮——造幣諸規則と井上侯——西洋建築と造幣寮——コークスの製造——運賃丸——鐵道の架設——外國に劣らぬ好地位——創業以來の一人——井上侯の監督振——造幣寮の火災と井上侯——

造幣寮の火災と井上勝——井上勝と井上候——井上候のバッテ
ー——兩井上の服裝——井上候と造幣寮——馬渡俊邁——井上候
と茶船——井上候の動靜——井上候の從行者——日下義雄——開
成所

九 造幣寮の開業式

(九三一—一〇〇)

開業の盛儀——花火と火災——開業式の制服と接待——秤量所の
宴會——三條公の旅館——花火と久世治作——舟卯と加島屋別莊
——井上候の居所——見物人の雜沓——櫻の名所

一〇 造幣頭と首長キンドル

(一一〇一—一二〇)

甲斐九郎——井田讓——井上勝——馬渡俊邁——一等寮二等寮と
造幣頭——伊藤博文——益田孝徳——益田と井上候——益田と長
與徳兵衛——馬渡造幣頭とキンドル——岡田平藏——井上の四天

王——泉布觀——キンドルの跋扈——工業はキンドルの全權——
キンドルの來歴——香港造幣局——キンドルの俸給——キンドル
と坩堝——キンドルとギンドル——キンドルの干涉振——ツーク
——貨幣洗鍊器——キンドルとツークの衝突——ブラガ——キ
ンドルと守衛兵——キンドルと糞——禁煙と免職——キンドルと
井上勝——キンドルと遠藤謹助——キンドルの傲慢無禮——石丸
造幣頭とキンドル解僱問題——キンドルの解僱と褒賞——キンド
ル排斥運動——吉田清成の憤慨——キンドル解僱事情

二 造幣寮の制服並職工の待遇法

(一二〇—一二五)

造幣寮の制服——眞服屋——造幣職工と與力同心——斷髮裸體——
勤務時間と滿年獎金——造幣局の美風——勤務時間の正確

三 新貨條例並製貨に關する事

(一二五—一二二)

新貨條例の發布——新貨條例と澁澤榮一——伊藤博文の金貨本位
建議——貿易銀——龍顔紋様問題——供試貨幣——造幣局年報——
鑄造貨幣の外國試驗——貨幣外國試驗廢止と森有禮——分析とツ
ーキー——亞米一と地金——鐵道馬車——地金の精製——神戸精
銅所と岡田平藏——大野彌三郎——天體儀、渾天儀の獻上——加納
夏雄の彫刻

二三 造幣寮と文明的事業

(二三三—一四四)

新文明の策源地——造幣寮と造兵司——瓦斯燈——コークス——
簿記法——川口武定——山内芳秋——津隈良任——簿記とブラガ
——三島爲嗣——日記帳と原簿——複式簿記法——活字とインキ
——須藤雜貨店——差引決算表——各省の練習生——遊龍鷹作——
スワビー——造幣寮員と長崎人——日進學社——日進學社の跡

中卷目次

一四 商法司並通商司の創設

(一四五—一五六)

諸藩の國產方——商法司設立事情——商法司の不成績——通商司
設立事情——通商司と井上侯——山口範造と松尾臣善——通商司
の開展——通商司の權限——實業獎勵と井上侯——井上侯の富國
論——通商司の權限と其事業——組合の設立——貿易商社——爲
替會社、通商會社、廻漕會社——通商司の不成績

一五 爲替會社の始末

(一五六—一六六)

爲替會社の組織——銀券錢券の發行——荷爲替——利益配當——
苗字帶刀——爲替會社と銀行——相場會社——井上侯の大阪出張
と懸命の隨行——爲替會社の處分——米商會社と油取引所——會

社券と準備金——準備金と新貨幣——實業見學の洋行と井上侯

一六 商社及廻漕會社附開墾會社

(二六六—二七四)

商社の事業——中央の商社と地方の商社——商社と爲替會社の關係——貿易商社——貿易商社の事業——五厘金——商社と米商會所——空米相場と玉乃世履——ボアソナード——廻漕會社——郵便蒸氣船會社——三菱會社——臺灣征伐の運輸御用——上海航路——共同運輸會社——郵船會社——開墾會社

一七 富岡製絲場の創設

(二七五—二八七)

富岡製絲場の創設とブリュナー——大隈重信の蠶絲改良意見——澁澤榮一——大木民平——吉井幸輔——英國代理公使アダムス——上州絲と奥州絲——蠶絲改良の必要——養蠶と山繭——模範工場の設立——製絲工場地の撰定——燥殺法と蒸殺法——尾高惇忠——